青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（東青）における主な意見

平成２９年２月１３日

目　次

１　東青地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... 1

２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... 2

（１）重点校、拠点校、地域校について..... 2

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... 3

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合..... 3

イ　青森東高校平内校舎の募集を停止する場合..... 5

（３）その他の意見..... 7

３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... 9

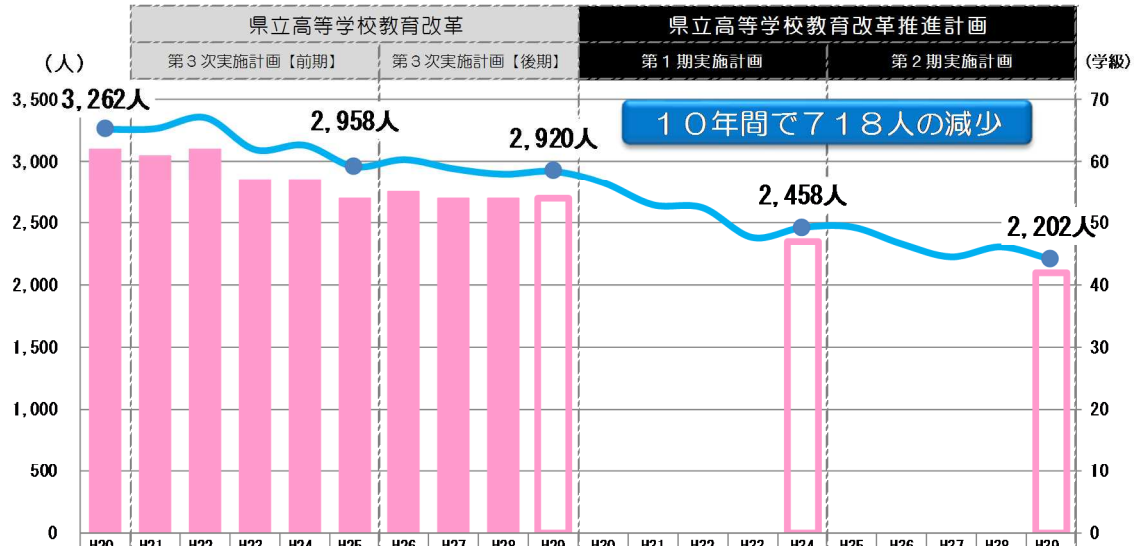
【参考１】委員名簿（東青地区）..... 10

【参考２】オブザーバー名簿（東青地区）..... 11

【参考３】地区意見交換会の開催状況（東青地区）..... 12

１　東青地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業（予定）者数は、各年３月。
　平成２９年度以降は、平成２８年５月１日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。
※平成２９年度の学級数は、県立高等学校教育改革第３次実施計画【後期】によるもの。
　平成３０年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。



(平成28年4月1日現在の学年)	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26 (高3)	H27 (高2)	H28 (高1)	H29 (中3)	H30 (中2)	H31 (中1)	H32 (小6)	H33 (小5)	H34 (小4)	H35 (小3)	H36 (小2)	H37 (小1)	H38	H39
中学校卒業（予定）者数	3,262	3,268	3,357	3,097	3,133	2,958	3,016	2,941	2,897	2,920	2,824	2,643	2,619	2,378	2,458	2,463	2,326	2,221	2,302	2,202
学級数	62	61	62	57	57	54	55	54	54	54					47					42

	H25までの増減（対H20）	H29までの増減（対H25）	H34までの増減（対H29）	H39までの増減（対H34）
中学校卒業（予定）者数	△304人	△38人	△462人	△256人
学　級　数	△8学級	0学級	△7学級～△8学級	△5学級～△6学級
			△12学級～△13学級	

			第１期実施計画	第２期実施計画
試案における候補校		Ｈ２９	Ｈ３４	Ｈ３９
重点校	青森高校	７学級	△７学級（対 H29）	△１２学級（対 H29）
拠点校	青森工業高校	７学級		
	青森商業高校	６学級		
地域校※	青森北高校今別校舎	１学級		
重点校等の合計		２１学級		
連携校	青森東高校	７学級		
	青森西高校	６学級		
	青森北高校	６学級		
	青森南高校	６学級		
	青森中央高校	５学級		
	浪岡高校	２学級		
	青森東高校平内校舎	１学級		
連携校の合計		３３学級		
東青地区全体の合計		５４学級	４７学級	４２学級

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が２年間継続して２分の１未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見

（１）重点校、拠点校、地域校について

①　全般

○　重点校、拠点校、地域校の配置の考え方は良いと思う。

○　重点校、拠点校、地域校は候補校のとおりで良い。

○　高校でどのようなことに取り組むのかといった目標や夢を持つためにも重点校、拠点校、地域校の名称や役割をもっと浸透させてほしい。

○　重点校、拠点校、地域校を配置することは良いと思うが、重点校等の名称は再考してほしい。子どもたちのモチベーションの低下につながるおそれがあるため、表現上の格差はなくした方が良い。

○　地域校である青森北高校今別校舎については、募集停止の方向で検討する必要がある。その上で、重点校や拠点校については、充実した教育環境を提供できる学校規模を維持していく必要がある。

②　重点校

○　重点校の取組がイメージしづらいため、重点校の意味が理解されていないのではないか。

○　重点校は教員配置等の面で手厚くするという印象を強く受けるため、重点校以外の学校の保護者等がどのような受け止め方をするのか気に掛かる。

○　重点校は青森高校１校だけではなく、青森市西部又は南部にも配置し、地域差をなくした方が良いのではないか。

○　重点校については、２校配置した上で互いに競い合うと良いのではないか。

③　拠点校

○　職業教育を主とする専門学科の拠点校と普通科等の連携は考えられないのか。

○　他県の統合例を見ると工業科や商業科と普通科が統合している。拠点校と普通科の高校の統合も必要であると感じている。

○　拠点校の候補校である青森工業高校、青森商業高校は青森市の東部に位置しており、地域が偏っている。青森市の西部にも拠点校や複数学科を有する高校があれば良いと思う。

④　地域校

○　地域住民からは募集停止基準に該当した際には機械的、事務的に募集停止とするのかといった不安の声が聞こえている。

○　青森北高校今別校舎について、地域校として存続することは良いことだと思うが、募集停止とする際には、地域と話し合いながら進めてほしい。

○　青森北高校今別校舎が募集停止になることにより通学が大変になるとは思うが、通学する手段はあると思う。

○　地域校について、地域から高校がなくなることによる影響は地域によって異なると思うが、将来を見越して、募集停止基準による対応が必要であると思う。

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第３次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第１期実施計画		第２期実施計画	
	Ｈ２９		Ｈ３４		Ｈ３９
重点校	青森 ７学級		青森 ○学級		青森 ○学級
拠点校	青森工業 ７学級		青森工業 ○学級		青森工業 ○学級
	青森商業 ６学級		青森商業 ○学級		青森商業 ○学級
連携校	青森西 ６学級		青森西 ○学級		青森西 ○学級
	青森東 ７学級	△7学級 →	青森東 ○学級	△5学級 →	青森東 ○学級
	青森北 ６学級		青森北 ○学級		青森北 ○学級
	青森南 ６学級		青森南 ○学級		青森南 ○学級
	青森中央 ５学級		青森中央 ○学級		青森中央 ○学級
	浪岡 ２学級		浪岡 ○学級		浪岡 ○学級
	平内校舎 １学級		平内校舎 １学級		平内校舎 １学級
小計	５３学級	△7学級 →	４６学級	△5学級 →	４１学級
地域校	今別校舎 １学級		今別校舎 １学級		今別校舎 １学級
合計	５４学級	△7学級 →	４７学級	△5学級 →	４２学級

①　シミュレーションの基となった意見

○　募集学級数を考慮する必要はあるが、小規模であっても可能な限り学校を存続するという考え方もあると思う。

②　期待される効果等

○　全ての高校を残すことには通学しやすいというメリットがある。

○　特に効果は見受けられないが、強いて言えば地区内において通学に支障が生じないことが挙げられる。

③　更に検討を要する課題等

○　平内町の中学生は青森東高校平内校舎ではなく青森市内の高校への進学を希望している。同校舎には青森市の子どものうち市内の高校に進学できなかった子どもが入学している。これからは地元の子どもが地元の学校を良くするという認識を持ち、保護者や地域が変わっていかなければいけない。

○　青森東高校平内校舎が存続することで他校の学級減をしなければならないという点を考慮する必要がある。

○　全体の学級数が減っていく中でも学校規模を維持して子どもたちに部活動等を含め様々な体験をさせ、子どもたちが広い視野を持てるような教育環境の整備をお願いしたい。

○　全ての学校を残すことも一つの方法であると思うが、平成３９年度を見据えると高校の統合も視野に入れて考えていく必要があると思う。

○　高校において、生徒の学力を伸ばし進路実現できるよう、例えば進学校については８学級規模とし、ニーズがない学校の統合を進めないと、青森県のレベルが他県に比べ劣ってしまうのではないか。青森県全体のレベルアップも考えていかなければならない。

○　学校規模の縮小による教員数の減少等を踏まえると、学校の数を現状のまま残すことは難しいと思う。通学環境に配慮する必要はあると思うが、高校を統合することはやむを得ないと思う。

○　子どもたちのニーズに対応できない学校がいくつもできるより、教員数が確保され、様々な科目を開設できる学校を配置していくべきである。

○　学校規模が小さいと、教科によっては当該教科の免許を所持した担当者がおらず、免許教科外の指導が必要となることもある。それでは生徒が可哀想であり、小規模校については、小規模であることのデメリットを保護者に説明した上で統合する必要がある。

○　１学級規模の学校は２学級規模の学校に比べて教諭の定数が約半数になるため、教員が専門分野以外の指導をすることもあると思うが、それで高校教育が成り立つのか疑問である。

○　平成３９年度までを見据えた学校配置については、施設整備の面からも検討する必要がある。また、子どもたちが第一希望とする学校がどこなのかということも考えていかなければならない。

○　全ての学校を残す場合には校舎の改築等の予算も必要になると思うので、校舎が古い学校を校舎が新しい学校に統合することも検討してはどうか。

○　１学級当たりの定員を３０人～３５人とした上で、従来の教員数を確保できるよう、県単独による教員配置を願う。

イ　青森東高校平内校舎の募集を停止する場合

	第３次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第１期実施計画		第２期実施計画	
	Ｈ２９		Ｈ３４		Ｈ３９
重点校	青森 ７学級		青森 ○学級		青森 ○学級
拠点校	青森工業 ７学級		青森工業 ○学級		青森工業 ○学級
	青森商業 ６学級		青森商業 ○学級		青森商業 ○学級
連携校	青森西 ６学級		青森西 ○学級		青森西 ○学級
	青森東 ７学級	△6学級 →	青森東 ○学級	△5学級 →	青森東 ○学級
	青森北 ６学級		青森北 ○学級		青森北 ○学級
	青森南 ６学級		青森南 ○学級		青森南 ○学級
	青森中央 ５学級		青森中央 ○学級		青森中央 ○学級
	浪岡 ２学級		浪岡 ○学級		浪岡 ○学級
	平内校舎 １学級	△1学級 →	平内校舎 募集停止		
小計	５３学級	△7学級 →	４６学級	△5学級 →	４１学級
地域校	今別校舎 １学級		今別校舎 １学級		今別校舎 １学級
合計	５４学級	△7学級 →	４７学級	△5学級 →	４２学級

①　シミュレーションの基となった意見

○　平成３４年度までに１学級規模である青森東高校平内校舎を募集停止し、その後、平成３９年度を見据え、拠点校における複数学科の併設を含め、高校の統合について検討が必要であると思う。

②　期待される効果等

○　青森東高校平内校舎の入学者数は、現状で１学級の定員を大幅に下回っていることから、募集停止することによる他校への影響はないと思われる。

○　東青地区において学校規模を維持できる高校が増えることは、子どもの学習環境の面から見てメリットがある。

○　青森東高校平内校舎及び青森北高校今別校舎について、地域住民は校舎制が導入された段階で将来的な募集停止を予想していると思う。そのことも踏まえ、平内校舎を募集停止するというシミュレーションが現実的であると考える。

③　更に検討を要する課題等

○　小規模校を募集停止する際は、小規模であることのデメリットを地域や保護者に十分説明し、子どもたちを中心とした学校規模・配置であることの理解を得るべきである。

○　青森東高校平内校舎における入学者数は募集人員の２分の１を超えているため、同校舎が存続すると考える人がいると思う。
　基本方針の記載では、地域校以外の高校についても地域校の募集停止基準に該当しなければ募集停止にならないと誤解される懸念がある。

○　地域の学校がなくなることはその地域に非常に大きな影響を及ぼすため、地域の理解を得る努力をしてほしい。

○　青森東高校平内校舎については、地域としてのニーズはないと判断している。地域住民の理解を得る必要があるという点についても心配はないと思われる。

○　現状を踏まえ、青森東高校平内校舎が募集停止となる時期を早期に確定し、地域に対する説明を行うべきである。

○　平内町からの通学に係る補助を検討する必要がある。

○　青森東高校平内校舎を募集停止すると、高校は青森市内にのみ配置されていれば良いとの意識が醸成され、結果として、地域校である青森北高校今別校舎の生徒数減少に拍車がかかると思われるため、地域と具体的に話し合いをする必要がある。

○　検討を要する課題等は特にない。

（３）その他の意見

（学校規模・配置）

○　浪岡地域では、小学校と中学校の連携が図られ、浪岡高校へ進学する生徒が２割程度いるという実態を踏まえ、浪岡高校は２学級規模であるが、現状を維持してほしい。

○　平成３９年度を見据えた学校配置の検討に当たっては、東青地区における中学校卒業者数や高校入学者数を考慮した場合、青森市内の学校を中心に学級減等を考えていく必要があると思う。

○　第１期実施計画期間において、７学級規模の重点校を２校、連携校と統合の上７学級規模とした拠点校を２校、浪岡地域に２学級規模の連携校を１校、旧青森市内に５～６学級規模の連携校を３校配置してはどうか。

　第２期実施計画期間においては、連携校１校を統合し、７学級規模の重点校、拠点校を各２校、浪岡地域に２学級規模の連携校を１校、旧青森市内に５～６学級規模の連携校を２校配置してはどうか。

○　第１期実施計画において青森北高校今別校舎を募集停止とし、通学等の支援をする。また、平成３９年度までに、拠点校と連携校を統合し、東青地区の学校数を６校とする。

○　高校として必要な学校規模について、４～８学級規模であると各オブザーバーから情報提供があったことを踏まえ、基本となる学校規模の標準である４学級以上の高校を配置するとともに、拠点校と連携校との統合も考えられる。

○　高校教育改革については、子どものことを第一義的に考えるべきであり、教員数が少ない等、教育環境が悪い中で勉強させるのは子どもにとってマイナスであることから、高校として本来あるべき教育ができない小規模校については、統合や募集停止するといった英断を県教育委員会に求めたい。

○　何らかの基準を設定した上で、基準に該当した学校について統合等の検討を行ってはどうか。

○　地域校を除き、校舎制導入校は計画的に募集停止とし、現在２学級規模の高校も今後一定の基準に満たない場合は募集停止すると明確に示すべきである。

○　県内６地区ごとに学校配置を検討しているが、例えば青森東高校平内校舎の最寄りの高校は野辺地高校であること等も考慮し、地区を越えて学校配置を検討してはどうか。

○　学校配置については、第１期実施計画、第２期実施計画と分けて検討するのではなく、平成３９年度までを見通して検討していく必要があるのではないか。

○　教育活動の質を低下させないために必要な学級数を明確に示すべきであり、それが統合の必要性を訴える理由となる。

（学科等）

○　総合学科である青森中央高校や単位制を採用している青森東高校では様々な科目を履修できるが、その検証をしながら同様の高校が増えてくると良い。

○　スポーツに携わる人財を育てるための学科（スポーツ科学科）等の更なる充実も必要と考える。

（連携校等）

○　普通科等の連携校については、青森北高校のスポーツ科学科のように教育内容を明確にした特色化を図ってほしい。

○　高校に入学してから夢を探すような子どもたちにも夢を持たせることが、連携校のあるべき姿であると思う。

○　連携校の特色化を図るため、学校に使命を持たせるような取組を検討してほしい。

○　中学生や保護者は、市部の県立高校を志向する傾向が強く、私立高校を志望する傾向も強くなってきている。地元の高校に入学する生徒が少なくなっており、県立高校も魅力ある学校づくりが求められている。

○　近隣の普通高校と専門高校等が、学校の枠を超えて就職に必要な科目や進学に必要な科目を選択履修できるような連携を検討してはどうか。

○　各高校の連携内容については、子どもたちが高校に入学してから把握できるのではなく、進路を選択する時点で把握できるようにしてほしい。

（生徒の通学）

○　高校の数が減ったとしても、充実した教育環境が整備され、保護者の負担が増えなければ問題ないと考えており、県による通学支援等があれば良いと思う。

○　地域校が募集停止となった際には、通学手段の確保や寮の整備等により高校教育を受ける機会を確保してほしい。

○　以前は下宿により通学している生徒も多くいた。県立高校には寄宿舎を有する学校もあると聞いているが、寄宿舎の活用等により通学を支援することも考えられるのではないか。

○　第１期実施計画策定に当たっては、青い森鉄道やＪＲが高校の始業時刻に合わせたダイヤ改正を予定しているように、県民が一体となって子どもたちのことを考えていけると良い。

（その他）

○　東青地区の子どもが首都圏の子どもと張り合っていく力をつけるためにも、教員数の確保という考え方だけにとらわれず、本県の子どもをどのように育てていきたいかという視点が必要ではないか。

○　工業科や小規模校に導入している３５人学級を拡充し、きめ細かな指導をしてはどうか。

○　教育において一番重要なのは教員の質であると思う。いくら教員数が多くても、教員の質が低いと良い教育はできない。

○　県の予算が子ども一人一人にどのように使われているのか検証してはどうか。現在、生徒一人当たりどの程度の費用が必要で、少子化が進んだ１０年後にはどの程度になるか試算し、どうすれば費用対効果が上がるのか、教育の充実につなげるにはどうすべきかといった視点が必要ではないか。

３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

○　学校に馴染めない子どもの受け皿となっているとともに、大学へ進学している実例もあるので、現状を維持してほしい。

○　北斗高校や青森工業高校定時制課程は様々な課題を抱えている生徒が社会進出にチャレンジするための貴重な受け皿となっており、これからもその重要性は増していくため、両校の支援を希望する。

○　北斗高校に青森工業高校の設備を移設することは難しいため、現状の配置を維持した方が良いと思う。

○　定時制課程においては、働きながら通学している子どもは非常に少なく、どちらかというと様々な事情から全日制課程に通うことができない子どもの受け皿になっていると思う。定時制課程は、各地区１校程度の配置で良い。

○　定時制課程や通信制課程は、東青地区には１校あれば良いと思う。

○　各地区１校の配置とし、学習センターやカルチャーセンター等との連携を検討してはどうか。

○　定時制課程においては、子どもたちのニーズに応じ、可能であれば現状維持してほしいが、入学者数の減少が著しい場合には、北斗高校と青森工業高校の定時制課程の統合もあり得る。その場合には、普通科ではなく総合学科の定時制課程としてほしい。

　また、北斗高校の午前部、午後部のニーズが高いことを考慮し、この時間帯の定員の増加も視野に入れてはどうか。

○　青森工業高校の定時制課程は不要であると考えている。北斗高校で機械等に関する学習ができる科目を開設すれば十分であると思う。

○　通信制課程については、ニーズがある。

【参考１】委員名簿（東青地区）

（敬称略）

区　分	所　属　等	委　員　名	備　考
市町村教育委員会	青森市教育委員会　教育長	成　田　　一二三	
	平内町教育委員会　教育長	相　坂　　一　則	
	今別町教育委員会　教育長	澤　田　　渉	
	蓬田村教育委員会　教育長	吉　﨑　　博	
	外ヶ浜町教育委員会　教育長	村　田　　長　年	
ＰＴＡ	青森市ＰＴＡ連合会　会長 （青森市立甲田小学校ＰＴＡ　会長）	外　﨑　　浩　司	
	東津軽郡連合ＰＴＡ　会長 （蓬田村立蓬田中学校ＰＴＡ　会長）	森　　順　治	
	青森県高等学校ＰＴＡ連合会 東青地区協議会　会長 （県立青森北高等学校ＰＴＡ　会長）	越　田　　宏　治	
産業界	青森商工会議所青年部　副会長	賀　田　　州　一	
小中学校長会	青森市小学校長会　会長 （青森市立浜田小学校　校長）	山　谷　　尚　史	
	東津軽郡小学校長会　会長 （平内町立小湊小学校　校長）	沼　田　　礼　一	
	青森市中学校長会 （青森市立南中学校　校長）	伴　　孝　文	
	東津軽郡中学校長会　会長 （平内町立小湊中学校　校長）	田　村　　義　文	
	元県立青森高等学校　校長	三　上　　順　一	進行役

【参考２】オブザーバー名簿（東青地区）

（敬称略）

所　属　等	オブザーバー名	備　考
県立青森高等学校　校長	成　田　　昌　造	
県立青森西高等学校　校長	山　口　　龍　城	
県立青森東高等学校　校長	小野崎　　龍　一	
県立青森北高等学校　校長	佐々木　　裕	
県立青森南高等学校　校長	大　山　　誠	
県立青森中央高等学校　校長	花　田　　慎	
県立浪岡高等学校　校長	太　田　　正　文	
県立青森工業高等学校　校長	豊　島　　隆　幸	
県立青森商業高等学校　校長	落　合　　喜　一	
県立北斗高等学校　校長	川　口　　敏　彦	
県立盲学校　校長	上　澤　　司	
県立青森聾学校　校長	敦　川　　優美子	
県立青森第一養護学校　校長	佐　藤　　全　克	
県立青森第二養護学校　校長	森　山　　隆	
県立青森若葉養護学校　校長	小　野　　正　雄	
県立青森第一高等養護学校　校長	畑　井　　英　成	
県立青森第二高等養護学校　校長	川　村　　泰　弘	
県立浪岡養護学校　校長	奈　良　　親　芳	

【参考３】地区意見交換会の開催状況（東青地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月15日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月25日	○第１回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月19日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換